

町医者だより

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科

平成31年01月号

マクロライド抗生剤の長期投与

クラリスやジスロマックはマクロライド系の抗生剤で服薬された方も多くなじみのある抗生剤だと思います。ジスロマック（アジスロマイシン）の長期投与が喘息の急性増悪や肺気腫（COPD）を防ぐという論文が散見される様になりました。最近、以前から喘息でクラリスのみを長期的に服用していたという神経疾患の患者さんから繰り返し処方依頼されていたのですがそれを拒否してきました。理由の一つはその処方が適用外使用であることと患者さんには言わなかったのですがある懸念があったからです。それは少なくともジスロマックで心臓死が増える可能性が報告がされていてずっと気になっていたからです。今回はマクロライド抗生剤の長期投与に関するお話です。

クラリスとジスロマックの違い

同じマクロライド系ですが薬の構造が異なるため作用が異なると考えられています。クラリスは14員環マクロライドでジスロマックは15員環マクロライドです。私の理解では14員環マクロライドが免疫の修飾作用を有しています。なおクラリスは日本の大正製薬が創薬しアボットが世界規模で販売しています。

喘息での有効性は結論出ていない

2017年のランセットに掲載されたオーストラリアとニュージーランドからの報告ではジスロマック500mgを1週間に3日間服用することを48週間（1年間）続けると喘息の急性増悪が約40%減少するとしています。注意しなければならないのはこの臨床研究は従来の喘息の治療に加える「追加療法」で単独で治療するものではありません。しかしながら2018年のコクランシステミックレビューを見ると歯切れが悪いです。同レビューは複数の研究をまとめて解析するのですが、症状がない日数が特に小児では増えるとしています。不確定要素が多くて有効性を結論付けられないとしています。

マクロライド抗生剤による心臓死の増加は？

アジスロマイシンが心臓死のリスクとの論文を初めて目にしたのは2012年5月12日号のニューイングランド医学雑誌（NEJM）です。この論文は長期投与ではなく5日間の服用中に心臓死のリスクが増えるというもので、その後ちよくちよくNEJMで取り上げられてきました。再度論文をあたると2018年のBMJ Openにオランダのマクロライド抗生剤が心臓死に関連するの臨床研究が掲載されています。結論からいえば、クラリスもジスロマックもペニシリンと同様に心臓死を増やさなかったということです。この論文でどれくらいの長期服用者がいたか読み切れませんでした。またクラリスを用いた論文がなく喘息の急性増悪に本当にクラリスが有効かという疑問も残ります。またクラリスの長期投与で日本人に副作用の出現はないのかという疑問も残ります。またマクロライドは好中球性喘息に効果があるのではないのかという基礎的な論文もありまだまだ治療手段としては確信を持っていません。先の患者は神経原性の筋疾患との診断を受けて神経内科にかかっていました。そこの担当医が患者が希望するならば処方してやればいいのかと言っていたようです。マクロライドは筋肉障害を起こしうる薬です。それを何年にもわたり服用してきました。病気の進行に関係なかったのか大いに疑問です。